

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



2面

**折原会長が能登半島地震
被災地を訪問**
(広報・調査部)

4面

**大阪・京都で新品種
「きらみずき」限定販売**
(滋賀県本部)

配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



全農グループ

食と農を未来へつなぐ。

News!



折原会長が能登半島地震被災地を訪問

現地のニーズを把握し具体的な支援を約束

広報・調査部



町野ライスセンターの被害を確認する石川県本部の末政満県本部長(左)、折原会長(中)、藤田組合長(右)



約2mの高さまで隆起した水田を視察する藤田組合長(左)と折原会長(右)

全農経営管理委員会の折原敬一会長は5月14日、能登半島地震の被害を受けた石川県のJAのと、JA内浦町の被災地を視察し、現地のニーズを把握しながら支援を継続していく考えを示しました。

JAのとの藤田繁信組合長の案内で特に被害が大きかった宝立・町野ライスセ

ンターを視察しました。藤田組合長は「被害の少なかつたライスセンターを優先して再開させたい。復興にはJAグループの力が必要だ」と訴えました。

JA内浦町の神田美佐子組合長は「被災した農家は目の前の生活再建で精いっぱい。将来像を描けるようにJAの協同の力で後押ししたい」と話しました。

折原会長は、「被害は予想以上で復興は道半ばであり、今後もニーズを把握しながら具体的な支援を進めていきたい」と応えました。

News!



後継者・高校・大学校肉牛枝肉研究会を開催

若手の肥育技術向上・生産意欲の高揚を目指して

栃木県本部



枝肉を見学する高校生



審査の結果、各部で最優秀賞を決定

栃木県本部は4月19日、東京食肉市場(東京・品川)で「栃木県後継者・高等学校・大学校肉牛枝肉研究会」を開催しました。県内の肥育経営後継者と日頃和牛の飼育に取り組む学生らが一堂に会し、それぞれが育てた枝肉の肉質を競い合いました。

同研究会は、次世代を担う若手や学生の肥育技術と生産意欲の向上を目的とし

て、毎年開催しています。当日は、同研究会に出品した若手生産者や高校生ら約50人が集まり、枝肉や競りを見学。高校生は初めて見る光景に興味津々で、「目の前で見るのは初めて。勉強になる上にわくわくする。将来は畜産に携わる仕事に就きたい」と話す高校生もいました。

審査の結果、第1部・交雑種・後継者の部は長谷川大地さん(JA足利)、第2部・黒毛和種・高等学校・大学の部は県立真岡北陵高校、第3部・黒毛和種・後継者の部(IIとち和会の部)は町井一貴さん(JAかみつが)がそれぞれ最優秀賞を獲得しました。町井さんは昨年に続き2連覇となりました。今後後継者育成を継続し、生産基盤の維持拡大に取り組みます。



精米2工場がFSSC22000認証取得

食品安全マネジメント認証でより安全な食品提供へ

広島県本部



FSSC22000の認定書を掲げ笑顔を見せる職員

認証取得を受けた広島県本部米穀部の塚本栄孝部長は「生産者の皆さまに従来以上に安心して出荷いただけるようになるとともに、消費者からより信頼される食品工場としての機能を発揮していきたい」と話しました。

同規格は「Food（食品）Safety（安全）System（システム）Certification（認証）22000」の略であり、消費者に安全な食品を提供するための食品安全マネジメントシステムの確立を目的とした認証システムです。

今回のFSSC22000取得にあたり、窓ガラスや照明器具の飛散防止対策や、異物混入対策や衛生環境維持を目的とした西部酒米搗精工場の設備更新など、従来以上に高いレベルで食品安全を実現するための仕組みを整備しました。

広島県本部が運営する「パールライス工場（精米、無洗米、石抜き調製玄米の製造拠点）」と「西部酒米搗精工場（酒造用精米の製造拠点）」は、食品安全マネジメントシステムの国際規格である「FSSC22000」を取得しました。



農業労働力支援事業 9割が高い評価

県内8JAが参加、今年度は延べ5000人めざす

山形県本部



県外からの参加が多数あったサクランボ収穫作業です。

作業内容はサクランボ収穫のほか、スイカや西洋梨の出荷調整など多岐にわたりました。参加者は60代が延べ1187人で最も多く、居住地別では、県内在住者が同2343人で全体の約8割を占めました。県外からは東京都や北海道、沖縄県などから同672人の参加がありました。

生産者アンケートでは、事業に対して「大いに評価する」が約9割で「労働力確保の手間が省けた」「過去最大の収量となった」という意見が寄せられました。参加者アンケートでも「とてもよかった・よかった」が約9割を占め、「農業が身近になり、適正価格への理解が深まった」という声がありました。

山形県本部と山形県、(株)JTBは、3者で取り組んでいる農業労働力支援事業の2023年度実績をまとめました。事業には県内15JAのうち8JAが参加し、支援実績は昨年度より約9000人多い延べ3015人となりました。今年度は延べ5000人の支援実績をめざします。

News!



イオン6店舗で「ぎふ清流GAP」フェア

県独自制度の認証取得で安全・安心な農産物を届ける

岐阜県本部



「ぎふ清流GAP」特設コーナー



消費者へ認証農産物の魅力を伝える
大熊会長

岐阜県本部は、県独自の農業生産工程管理評価制度「ぎふ清流GAP」に認証された農産物を販売するフェアを県内のイオン6店舗で、4月13日から2日間開催しました。イオンスタイル各務原インター店では特設コーナーを設け、GAPの概要をパネルなどで紹介しました。

「ぎふ清流GAP」は、食品安全や環境保全、労働安全など109項目の評価基準があり、評価が一定水準に達した生産者には、消費者への

PRに活用できるロゴマークが付与されます。認証取得に向けて農業生産工程内のリスクを管理することで、持続可能な農業生産に対する消費者からの信頼を高めることを目指します。

イオンリテール(株)東海カンパニーは「ぎふ清流GAP」のパートナーに登録されており、同フェアは消費者への認知度向上を目的として開催しました。

特設コーナーには、認証を受けたトマト、小松菜、水菜、イチゴが並び、トマトの試食も好評でした。糸貫トマト振興会の太熊昭哲会長は「これからどんどんおいしくなるトマトをぜひ手に取り、安心して味わってほしい」と、訪れた人に認証農産物の安全性やおいしさなどの魅力を伝えました。

News!



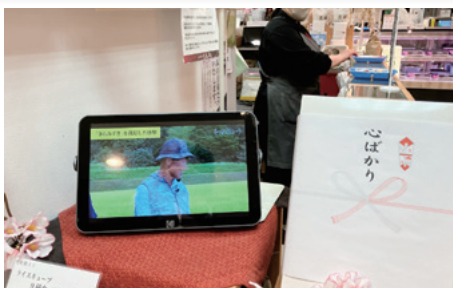
大阪・京都で新品種「きらみずき」限定販売

「おこめの美米庵」で量り売り、生産者の動画も放映

滋賀県本部



ミニのぼりなどを設置して新品種「きらみずき」をPR



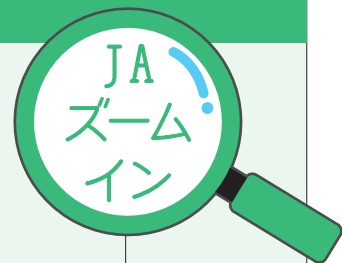
店頭でJAグリーン近江の生産者インタビューを放映

滋賀県本部はJAグリーン近江と共同で、同JA管内で有機JASとして栽培された米の新品種「きらみずき」を、「おこめの美米庵」の大阪店・京都店で4月上旬から数量限定で販売しました。

「おこめの美米庵」では玄米を量り売りしており、滋賀県が開発した新品種「きらみずき」も同様に量り売りを行いました。店頭にはミニのぼりやチラシを設置し、JAグリーン近江の生産者へのインタビュー動画を放映するなどPRを実施。「きらみずき」の価格は、店頭販売の中で2番目に高い玄米1kg当たり1450円(税別)で販売しました。

県本部職員は、「きらみずき」は、大粒でしっかりとした食感が特長で、かむほどに甘さが広がる。自信を持っておいしいと言えるお米。2024年産の本格デビューに向けてまず、おいしさを知ってもらいたい」と消費者にアピールしました。

滋賀県本部は、「きらみずき」などの県産ブランドの存在・魅力を県内外の消費者にさらに知ってもらうため、今後も生産拡大や情報発信を積極的に進めていきます。



「働く、学ぶ、愛し合う」

心を二つに農村社会を次世代に

大分大山町農協は、農家、組合員が心と心を一つにして「働く、学ぶ、愛し合う」という思想、理念のもとに豊かさを求め、常に「チョツと無理かな」というところに夢と希望を描き、背伸びをしながら挑戦を続けています。



鎌手支所の移転新設式



桜を愛でる小宴

里山事業で「五馬媛の里」 「桜を愛でる小宴」開き交流

里山事業として2015年に開園した「木の花ガールテン五馬媛の里」は、現在31畝の敷地内で四季折々に花の咲く約450種約3万6000本の木々を植栽しています。

4月10日には、満開の八重

桜や枝垂れ桜の下で、取引先の関係者ら約380人を招き「桜を愛でる小宴」を開きました。会場では、農家もてなし料理・百のご馳走が並び、地酒を酌み交わしながら交流を深めました。

「地域集落文産農場」整備 高齢者に働く場と生きがい

高齢者が公的年金プラス給与で安心して暮らせる豊かな老後の生活保障として20年3月、クレソンの高設栽培と施設野菜を栽培する約500坪（1650平方メートル）のビニールハウスと休憩談話室を兼ね備えた「地域集落文産農場」第1号を開設しました。そして、21年3月には第2号を町内に開設。休憩談話室も完備され、建物面積

大分大山町農協 (大分県)



概要 2024年3月31日現在

正組合員数	541人
准組合員数	288人
職員数	36人
販売品取扱高	11億7千万円
購買品取扱高	3億9千万円
木の花ガールテン取扱高	13億3千万円
貯金残高	72億5千万円
長期共済保有高	286億9千万円
主な農畜産物	エノキタケ、梅、スモモ、ハーブ、クレソン、加工品など



エノキタケを手にして生育を確認する広瀬勝貞前大分県知事

1484平方メートルで特産品エノキタケの栽培を行っています。農場では地域の高齢者も働くことができ、従業員からは「軽労働で働けるからうれしい」との声もあります。矢羽田正豪組合長は「この文産農場の取り組みを通じて、地域の高齢者が生きがいと心の豊かさを持ち、イキイキと生活してもらいたい」と話します。

支所移転で駐車場60台分 給油所、コンビニも併設

22年8月には鎌手支所を移転新設オープン。約7000平方メートルの敷地に支所店舗、簡易型給油所、コンビニのミニストップ店舗の三つが並び、大型車を含め約60台分の駐車場も完備しています。ミニストップは、標準の1・5

倍の店舗面積で、直売所・木の花ガールテンコーナーもあり、店内には農産品や肉、魚の生鮮食品などもそろえた新しいスタイルの店舗として地域の活性化に大きく貢献しています。

今後もJA役職員と農家組合員が一体となり、大山独自の農村社会を次世代に引き継いでいきます。



横浜市・日産スタジアムなどで各競技熱戦

全農チビリンピック2024



一輪車競技



ゲストと子どもたちによるリレーで聖火を点灯



開会式であいさつする安田専務

JA Zenroh Weekly

特集



サッカー決勝戦

日産スタジアムでは、親子マラソンやミニマラソン、50メートル走や一輪車競技が行わ

競技

また、聖火ランナー・ゲストが一緒に聖火リレーをし、聖火台に聖火がともされました。

開会式

全農が特別協賛する第46回J A全農チビリンピック2024が5月5日のこどもの日に、横浜市の日産スタジアムなどで開かれました。今年で38年目の特別協賛となる今大会は高橋尚子さん・全農所属の石川佳純さんから豪華ゲストとともに参加選手たちがスポーツを楽しみました。【広報・調査部】

れ、子どもたちが日ごろの練習の成果を競い合いました。

また、5月3日から行われた「J A全農杯全国小学生選抜サッカー決勝大会」は連日白熱した試合が続く、決勝戦はレジスタFC（埼玉県）と川崎フロンターレU-12（神奈川県）が対決。延長戦でも決着がつかず、PK戦でレジスタFCが勝利、昨年に続き2連覇を達成しました。

卓球

港北スポーツセンターでは、「J A全農杯チビリンピック小学生卓球選手権大会」を開催。ホープス（5・6年生）、カブ（3・4年生）、バンビ（1・2年生）の各カテゴリー男女に分かれ熱戦を繰り広げました。また、大会会場に石川佳純さんが登場し、子どもたちにデモンストレーションを行いました。

全農お楽しみ広場

日産スタジアム西ゲート前広場では、「全農お楽しみ広場」を開催しました。5年ぶりに復

全農X
「全農広報部スポーツ応援」
アカウント



日刊スポーツ
公式YouTube



サッカーキング
YouTube



TikTokでの配信

TikTokアカウント「JA全農チビリンピック」で、当日の競技の模様や参加選手のコメントなどイベントの様子を随時配信中です。



情報発信

全農公式Xアカウント「全農広報部スポーツ応援」では開催状況を都度更新サッカーキングと日刊スポーツアカウントでは北澤豪さんの解説のもと「JA全農杯全国小学生選抜サッカー決勝大会」決勝戦をライブ中継しました。

ゲスト一覧

アニマル浜口さん、高橋尚子さん、北澤豪さん、浜口京子さん、石川佳純さん、吉田沙保里さん、武井壮さん



5月5日
こどもの日開催
親子8500人が
来場

JA

親子マラソン



表彰式では賞状と副賞の国産農畜産物を贈呈



こどもの日の開催にちなんで「こいのぼり」を選手と熱唱するアニマル浜口さんと浜口京子さん



参加者と吉田沙保里さんが一緒に餅つき



卓球大会では石川佳純さんへの質問コーナーを開催



2連覇を果たしたレジスタFC(埼玉県)

表彰式では各種目の入賞者に安田専務が副賞として、「黒毛和牛焼肉用」や「九州産若鳥」、千葉県産米「ふさおとめ」などを贈呈しました。

各種目の参加者には、インスタントごはん、栄養ハンドブック、クリアファイル、「Apron」(5月号)などを渡し、子どもたちを激励しました。

全農はこれからも、子どもたちの健康づくりやスポーツ選手の育成をサポートしていきます。

表彰式

活した飲食ブースでは「石川佳純(かすみん)カレー」や疲労回復効果が期待される豚肉を使用した豚丼や豚汁を販売。また、焼き餅や農協牛乳の無料配布を行ったほか、全農のブランド「ニッポンエール」商品や神奈川県産飲料などの販売も行いました。焼き餅配布ブースでは、現役の時、よく餅を食べていたという高橋尚子さんに餅の栄養についてお話しいただき、他ブースでは管理栄養士の堀井弘太郎先生によるスポーツ栄養の解説を行いました。

ステージでは、ゲストと一緒に餅をつくイベントも実施。大きな歓声が上がリ、大変にぎわいました。

果汁飲料「和歌山県産果汁100%みかん」を新発売

「メイトー×ニッポンエール」全国ファミリーマートで販売

全農は、(株)ファミリーマートとの商品開発の一環として、全農グループである協同乳業(株)を販売者とした3者協業による「メイトー×ニッポンエール和歌山県産果汁100%みかん」を全国(南九州・沖縄地区除く)のファミリーマートで6月4日から発売します。【営業開発部・酪農部・協同乳業(株)】

使用している和歌山県産の温州ミカンは、水分管理を徹底し、糖度と酸度がバランス良く仕上がるよう工夫して生産されています。そんな温州みかん果汁をぜいたくに100%使用し、素材のおいしさを最大限生かすことで、優しくスッキリした味わいが楽しめる果汁飲料に仕上げました。

本商品は、市場に出回らない果実を積極的に使用することで、生産者支援と食品ロス削減に貢献しています。



メイトー×ニッポンエール
和歌山県産果汁100%みかん

広島県産丹波大納言を使った「さんあーるもみじ」新発売

「3-R」「ニッポンエール」のダブルブランド新商品

広島県本部は、耕畜連携・資源循環ブランド「3-R (さんあーる)」と、「ニッポンエール」のダブルブランドの新商品として、「さんあーるもみじ」(もみじ饅頭)の販売を開始しました。

【営業開発部・広島県本部】

主原料である小豆は、3-R循環野菜の認定基準である、土壌診断の実施と県産の畜産堆肥を使用して生産された広島県産「丹波大納言」を使用しています。「丹波大納言」は、ポリフェノールや食物繊維が豊富で、色が濃く大きな粒が特徴です。その特徴を生かして、つぶあんにす



もみじ饅頭「さんあーるもみじ」



「さんあーるもみじ」をPRする職員

ることで「丹波大納言」の食感、風味、うまみを最大限味わえる商品に仕上げました。

同商品は、広島土産の定番もみじ饅頭の老舗として廿日市市の宮島に本社を置く(株)やまだ屋が製造しています。



JA全農の産地直送通販サイト

JAタウン ショップ紹介

JA全農東京

東京都の西の端、中山間地の入り口でもある日の出町で栽培されたトマトです。「ひので」という名の通り、日の出町は一年を通じて晴れの日が多く、冷涼な気候はまさにトマト栽培に理想の土地です。

今では都内有数のトマト産地となりましたが、ほとんどが地元で消費されるため市場に出回ることほとんどありません。地元の直売所には、希少なトマトを求めて行列ができ、30分足らずで完売する日もあります。

硬く引き締まった日の出町産トマトは、甘味と酸味のバランスが自慢で、ガブッとそのまま食べても、切ってサラダにするのもお勧めです。



幻の日の出町産トマト! 約2kg 入り
JAあきがわ...2500円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

